

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長  
(公印省略)

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。



連絡先 福井県農業試験場  
病害虫防除室



Tel 0776-54-5100

FAX 0776-54-6403

E-mail byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp

福井県病害虫防除室

令和 3 年農作物病害虫発生予察予報第 6 号

8 月の気象概況

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに 40% です。

[水稲関係]

病害虫名 穂いもち

1 予報内容

発生時期：初発期 中晩生穂いもち 8 月 2 半旬

被害程度：少発、ただし山間、山沿い、常発地では中発

発生量：平年並みで前年より少ない

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 葉いもちの発生がないところでは穂揃期に 1 回薬剤を散布する。葉いもち発生が見られる圃場では出穂直前と穂揃期の 2 回薬剤を散布する。

(2) 耐性菌の発生を防止するため同一系統薬剤の連用は避ける。

病害虫名 紋枯病

1 予報内容

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年より少ない

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 中生品種で、穂ばらみ期の発病株率が 20% 以上の場合や、倒伏が予想される圃場では、防除を行う。

(2) 粉剤・液剤での防除は、穂ばらみ期～出穂直前と穂揃い期の 2 回行う。散布は株元の病斑に薬剤が十分に付着するようにする。

(3) 早期に落水すると進展しやすいので、水管理に注意する。

病害虫名 ごま葉枯病（葉）

1 予報内容

発生時期：発生進展期は8月中旬頃

被害程度：少発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 出穂期以降に根腐れを起こさないように間断通水を行い、早期落水はしない。

(2) 多発地では穂枯れの発生する恐れがあるので、穂ばらみ期～傾穂期に薬剤散布をする。

病害虫名 斑点米カメムシ類

1 予報内容

発生時期：加害最盛期は8月1半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年並みで多い

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 出穂期以降の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を助長するので行わない。

(2) 粉・液剤での防除は、穂揃期～乳熟期と糊熟初期の2回薬剤散布を行う。

(3) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が違うので注意する。（詳細は防除指針参照）

(4) カメムシ類は、水田の周縁部に多く発生するので、本田防除の際は畦畔も含めて防除する。

(5) クモヘリカメムシの発生が多い場合は、収穫14～7日前に追加防除を行う。ただし、使用基準を遵守する。

(6) 水田内の雑草が多い圃場では、カメムシ類が定着し、斑点米の発生が多くなるので防除を徹底する。

病害虫名 コブノメイガ

1 予報内容

発生時期：幼虫加害最盛期は8月中旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年より少ない

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 適期コシヒカリ栽培や多肥田に多く発生するので注意する。

(2) 発生が多い場合は、葉が巻き始める時期を目安に防除する。

病害虫名 コバネイナゴ

1 予報内容

発生時期：成虫加害最盛期は8月中旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

(1) イナゴは広域に移動するので、発生が多い場合は、広域一斉に防除を行う。

(2) 斑点米カメムシ類の防除により、本虫の併殺が可能である。

病害虫名 ツマグロヨコバイ

1 予報内容

発生時期：発生最盛期は8月中旬頃

被害程度：少発

発生量：平年、前年より少ない

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 早生刈り取り以降に中晩生で多くなる場合があるので注意する。

(2) 斑点米カメムシ類の防除により、本虫の併殺が可能である。

病害虫名 セジロウンカ

- 1 予報内容  
発生時期：加害盛期は8月中旬頃  
被害程度：少発  
発生量：平年、前年より少ない
- 2 防除対策および防除上の注意点  
(1) 8月上旬に株当たり幼虫が30～40頭以上の場合は防除する。  
(2) 薬剤は株元によくかかるように散布する。

病害虫名 トビイロウンカ

- 1 予報内容  
被害程度：少発  
発生量：平年、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点  
(1) 早期発見に努め、発生がみられたらただちに防除する。

病害虫名 フタオビコヤガ（イネアオムシ）第3世代

- 1 予報内容  
発生時期：第3世代幼虫加害盛期は平年よりやや早い8月4半旬  
被害程度：少発、局中発  
発生量：平年より少なく、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点  
(1) 直播田や熟期の遅い品種や作型、過繁茂のイネでは多発しやすいので注意する。  
(2) 斑点米カメムシ類の防除により、本虫の併殺が可能である。

**[ダイズ関係]**

病害虫名 紫斑病

- 1 予報内容  
発生時期：初発は8月1半旬頃  
被害程度：少発  
発生量：平年並みで前年より少ない
- 2 防除対策および防除上の注意点  
(1) 開花20～35日後に薬剤散布を行う。  
(2) 耐性菌の発生を防止するため同一系統薬剤の連用は避ける。

病害虫名 ウコンノメイガ

- 1 予報内容  
発生時期：第2世代幼虫加害盛期は平年より早い8月初め  
被害程度：少発、局中発  
発生量：平年、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点  
(1) 若齢幼虫期（8月初め）に薬剤を散布する。  
(2) 山間、山沿いの圃場や生育旺盛で葉色の濃い圃場では、多発生する恐れがあるので、注意する。

病害虫名 シロイチモジマダラメイガ

- 1 予報内容  
発生時期：第2世代成虫発生最盛期は平年並みの8月下旬  
被害程度：少発  
発生量：平年より少なく、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点  
(1) 若莢期から莢伸長期の8月中旬以降に防除する。  
(2) 山間部や山沿いでは発生が多くなるので注意する。  
(3) 薬剤は莢に充分付着するように散布する。

病害虫名 カメムシ類

- 1 予報内容  
発生時期：圃場侵入最盛期は8月下旬  
被害程度：少発、局中発  
発生量：平年並み、前年より多い
- 2 防除対策および防除上の注意点  
(1) 圃場への侵入が多くなる子実肥大初期（8月下旬）以降に防除を行う。  
(2) 8月下旬の圃場侵入期に1圃場あたり100株ずつ3カ所の見とり調査を行い、カメムシ類が平均して100株あたり0.3頭以上いる場合は防除を行う。  
(3) ホソヘリカメムシが優占種である場合は、加害・分散能力が高いので注意する。  
(4) 薬剤は莢に充分付着するように散布する。

病害虫名 フタスジヒメハムシ

- 1 予報内容  
発生時期：第2世代成虫発生最盛期は8月下旬頃  
被害程度：少発、局中発  
発生量：平年より少なく、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点  
(1) 第2世代成虫の発生初期である8月中旬頃と発生最盛期である8月下旬頃の2回防除を基幹とする。  
(2) チアメトキサムの種子塗沫処理を行った圃場では、8月下旬の1回防除を行う。  
(3) 発生最盛期（8月下旬頃）において、1圃場あたり3カ所以上の払い落とし調査を行い、1カ所あたりフタスジヒメハムシ成虫が70頭以上払い落とされた場合は防除を行う。  
(4) 薬剤は莢に充分付着するように散布する。

[野菜関係]

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
スイカ	つる枯病		少発	平年：並み 前年：並み	1) 圃場排水に努め、敷きわらを行うとともに、過繁茂を避けて、通風をよくする。 2) 被害葉を除去し、圃場外で処分する。 3) 同一系統薬剤の連用は避ける。
	炭疽病		少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや多	1) 圃場排水に努め、敷きわらを行うとともに、過繁茂を避けて、通風をよくする。 2) 被害葉を除去し、圃場外で処分する。 3) 同一系統薬剤の連用は避ける。
	疫病		少発	平年：少 前年：並み	1) 圃場排水に努めるとともに、敷きわらを行う。 2) 予防散布を行う。
キュウリ スイカ	うどんこ病		少発	平年：少 前年：多	1) 多肥栽培を行わず、適正な施肥管理を行う。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける。
全般	アブラムシ類		少発	平年：並み 前年：やや多	1) 対象作物により薬剤が異なる。
	ハダニ類		少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	
	ハスモンヨトウ	加害初期： 8月上旬	少発 (局中発)	平年：多 前年：やや多	
	ネキリムシ類	加害盛期： 8月上旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	
ウリ類	ウリハムシ	成虫発生最盛期： 8月中旬	少発	平年：少 前年：並み	1) 薬剤は葉の裏もかかるように丁寧に散布する。
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	成虫発生盛期： 9月上旬	少発	平年：やや少 前年：やや少	1) 薬剤は葉の裏もかかるように丁寧に散布する。
	ハイダバラノメイガ(ダイコンシクムシ)	加害初期： 8月中旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1) 薬剤は新芽にかかるように散布する。

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナス ピーマン キュウリ ホウレン ソウ	ミメキイロアザ ミマ		少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1) 本虫は寄主範囲が広い。
トマト ナス ピーマン	オオタバ コガ		少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1) 果実に食入するため、若齢期に防除を徹底する。

#### [果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナシ	黒星病		中発	平年：並み 前年：やや多	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋却等適切に処理する。
	黒斑病		少発	平年：並み 前年：並み	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋却等適切に処理する。
	ハダニ類		少発 (局多発)	平年：並み 前年：並み	1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。

#### [花き関係]

花き名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キク	アブラム シ類		少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや多	1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。 2) 圃場周辺の除草に努める。
	オオタバ コガ		少発	平年：並み 前年：やや多	1) 若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2) 同一系統薬剤の連用を避ける。
	ハダニ類	加害盛期： 8月上旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや多	1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。